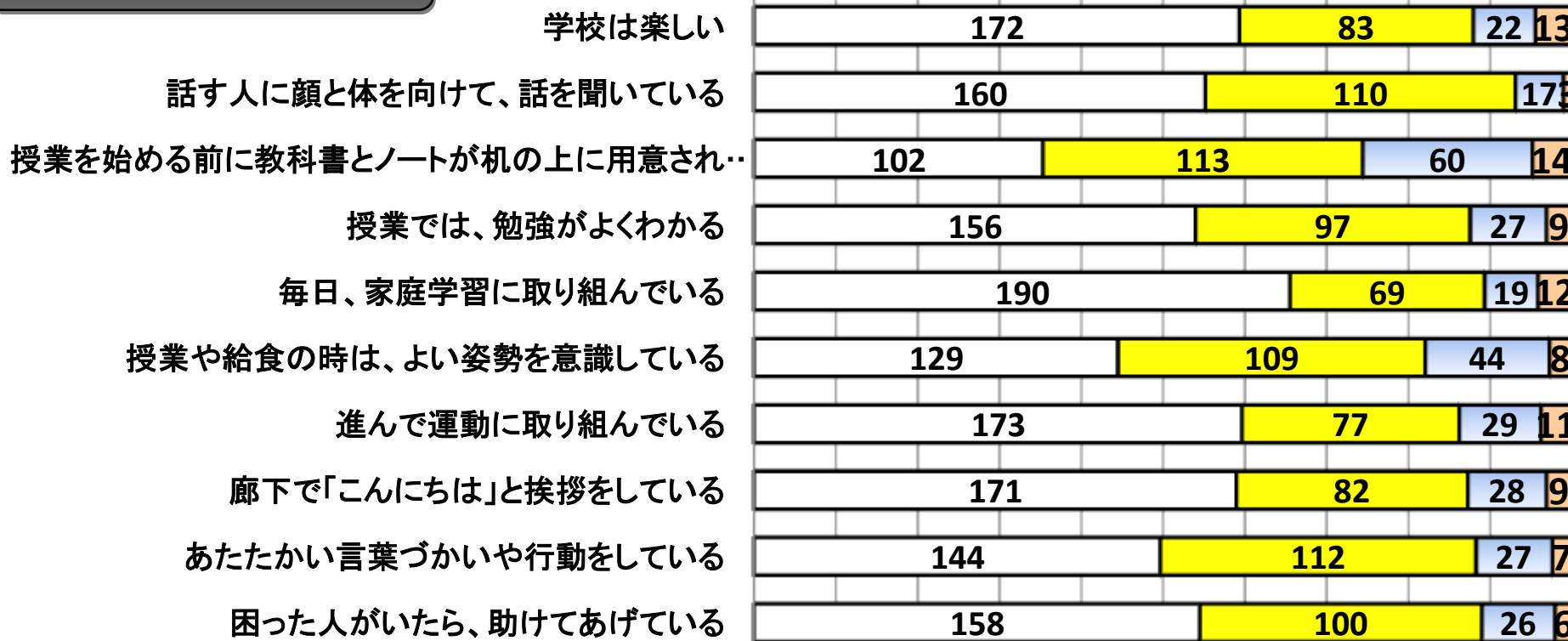


1 学期 学校評価の結果より

1学期の学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。児童の自己評価、保護者の皆様の評価、及びアクションプラン（具体的な数値目標）の評価は次のような結果になりました。この結果をもとに、2学期への取り組みを見直して進めていきます。

児童の自己評価

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



○児童の自己評価は、A評価とB評価の合計が80%を超えており、概ね高い自己評価となっています。

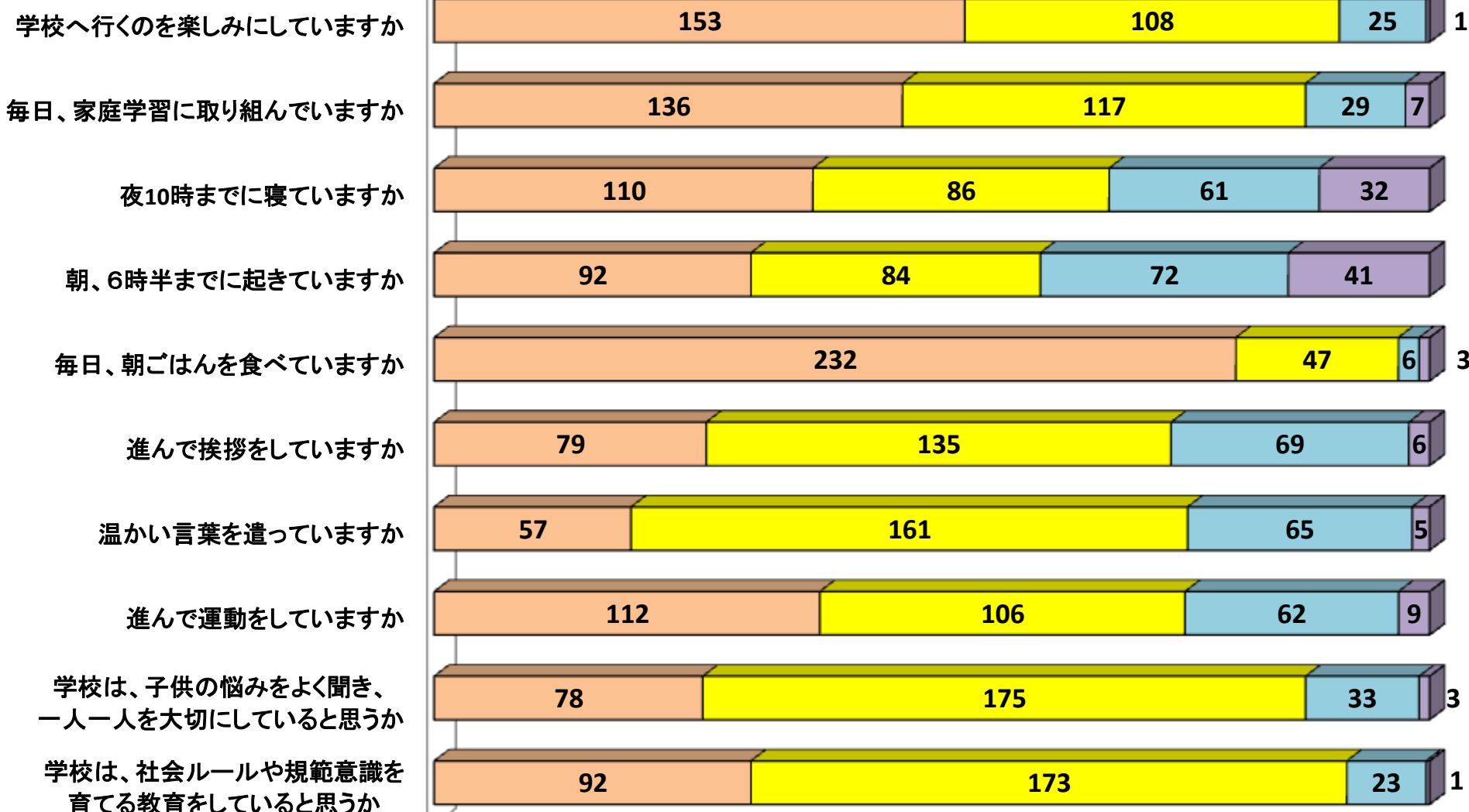
○今回、「話す人に顔と体を向けて、話を聞いている」といった具体的な項目に変更し、学校で統一して「学習に向かう姿勢」を提示し、評価しています。校内を観ても、どの学級も落ち着いて授業に取り組むようになっていますし、2学期も、さらに子供たちの高い意識で行動する姿に期待しています。

●比較的评价が低かったのは、「授業を始める前に教科書とノートが机の上に用意されている」でした。これは「あさひスタンダード」として、朝日町の小中学校全体で取り組んでいます。2学期からは、ノーチャイムで時計を見て行動することにも取り組んでいきます。挨拶も「おはよう」だけでなく、「こんにちは」まで広げたいと考えています。

●どの項目にも「あてはまらない」と回答している子供たちがいます。こちらの子供たちの方が大人のサポートを必要としていることでしょうか。しっかりと目を向けて2学期も取り組んでいきたいと思えます。ご協力をお願いいたします。

保護者の自己評価

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



○保護者の皆様の評価で、A+B評価の合計が90%を超えたのは、「学校へ行くのが楽しみ」「毎日、朝ごはんを食べている」「学校は社会のルールや規範意識を育てる教育をしていると思いますか」でした。「学校は子供の悩みをよく聞き一人一人を大切にしていると思いますか」「学校は社会のルールや規範意識を育てる教育をしていると思いますか」は昨年度から入れた新しい項目です。この2項目はあさひ野小学校と共通の項目として設定しています。

●評価が特に低かったのは、「10時までに寝る」「6時半までに起きる」でした。習い事等が夜にあって、就寝まであまり時間がないという様子も見取れますが、成長期の睡眠の充実はバランスよい成長に大切です。難しい課題ですが、引き続き取り組んでいきます。

保護者の方の評価は、児童の自己評価と比べると低い評価になります。挨拶と言葉遣いは、今後とも学校と家庭が連携して、粘り強く取り組んでいく必要があると考えます。

保護者のご意見より

● 家庭学習は大切だと思いますが、家で見てやれる時間が限られている人も多いと思います。苦手な宿題や遅れ気味の子供には、居残りでもよいので、学校である程度していただくと助かります。家庭学習は、できる範囲でその子供に合わせた量を調節してもよいのではないのでしょうか。

→ お忙しいなか、ご家庭でも家庭学習を見てくださって感謝いたします。放課後に時間があれば、個別に学習をすることがあります。

その際は、宿題よりも学習でつまづいている部分に取り組んでいます。家庭学習は、家庭での学習習慣付けの意味合いもありますので、できるだけ家庭で取り組めるといいと言われます。その子に応じた宿題量を出せばよいですが、現実的には難しいと考えます。

特別なご事情があれば、担任にご相談くださるようお願いいたします。

● 他人にあいさつなどが無いと思います。人にあいさつのできる人間になってほしい。

→ 学校もそう願って取り組んでいます。森信三さんは、小学校3年生までは「挨拶、返事、靴並べ」の3つの躰でいいと言われます。

習慣とは小さい頃から親や大人が手本を示し、粘り強く教え諭すことから生まれるものです。習慣とは身体が覚えることです。

あいさつはコミュニケーションの第一歩ですし、社会が求める資質・能力の第1位には、コミュニケーション能力の高さが挙げられます。

今年度は、廊下での「こんにちは」がとても広がっています。校内でも校外でも、あいさつができるようになってほしいですね。

○ 面談を行うなど細かいケアをしてくださっていると思います。宿題や提出物をていねいに見てくださって感謝しています。

○ 他学年との交流活動を通して、お互いに思いやる、尊敬しあう心を育ててほしい。

→ 本当にそう思います。異学年の交流活動は、以前よりもかなり増えています。異年齢のかかわりを通して、思いやりの心をいっそう育みたいものです。

● 家で言葉づかいが悪いです。他人に対して、相手の気持ちになって思いやって物事を言ったり、頼みごとをしたりしてほしいです。

● 子供同士の会話を聞いていると、わざと悪い言葉(お前、～やれよ、ちげーしなど)を使い合っているのが、悲しい気持ちになります。

● 特に最近は親や祖父母に向かって使う言葉が、命令口調なのが気になります。

どんな言葉づかいが相手に気持ち良く伝わるか、家でも知らせていきたいです。

→ 学校でも子供たちの言葉に注目しています。言葉は、その子、学級、そして学校の空気さえ変えてしまいます。集団の雰囲気は、言葉で善くも悪くもなります。温かい言葉を使うことを勧めながらも、「お前」「死ね」という言葉を絶対に使わないという自分自身の「生き方」の姿勢についても育んでいきたいものです。

ご家庭、学校、地域が同じ価値観をもって子供と接し、チームとして取り組んでいくことが一番効果があるはずで、2学期も、どうぞよろしくお願いいたします。

アクションプラン

(A+B 評価の割合)

①毎日、家庭学習に取り組む

○児童自己評価 91%

○保護者評価 90%

②進んで挨拶、温かい言葉遣いや行動をする

○児童自己評価 89%

○保護者評価 75%

③進んで運動する

○児童自己評価 88%

○保護者評価 75%